

JASIS

NEWS

No. 65

2019/9/30

日本インテリア学会会報

■会長挨拶

「建築」の領域と「インテリア」の領域

学会長 直井英雄（東京理科大学）

何をいまさらと思われるかもしれませんが、このふたつの領域の関係、特に学問領域の関係については、私なりに強い関心を持っています。というのも、長年にわたって、次のような悩ましい経験をしてきているからです。

いうまでもなく、私は、本学会の会員であると同時に、そのずっと前から建築学会の会員でもあります。かつて盛んに論文を投稿していたころ、さてこの論文はどちらに投稿したものかと迷うことがしばしばありました。また、これとは逆に、両学会で論文審査を何回も担当しましたが、そこでも、果たしてこの論文はこの学会の論文として審査してよいものかと迷うことがまありました。

このふたつの学問領域の関係については、私なりに考えていることがありますので、特に若い会員の何らかの参考になればと思い、以下、披露したいと思います。

私は学生時代、建築構法を専門にする研究室に所属し、大学教員になってからも、「建築構法」を教えていました。この学問（「構法計画学」）の基本となる考え方を単純化して言えば、「建築」というのは、「人の使う空間」をつくるために床、壁、天井、屋根などの「仕切り」（専門用語では「ビルディングエレメント」、略して「BE」と称していた）をつくり、その「仕切り」を支えるために柱、梁などの構造体を同時につくる、という捉え方をしていました。すなわち、この「人の使う空間」についての要求を与条件とし、建築で扱える「仕切り」（および構造体）を操作対象として、その要求をかなえるように適切につくる、ということです。この捉え方は、必ずしも構法計画学の特殊な捉え方ではなく、建築学全般に通じる一般的な捉え方といってよいように私は思っています。すなわち、「建築」の主眼目は、空間を

仕切る構築物をつくるというところにあるのではないかと思うのです。

ただ、話はここで終わりではありません。「建築」に対しては与条件と考えていたこの「人の使う空間」についての要求を、科学的に捉えようとする新しい学問が（新しいといっても数十年前のことですが）建築学の一分野として生まれました。言わずと知れた「建築計画学」（狭義の）です。実は、この「建築計画学」と「インテリア学」の学問領域関係こそが、この問題の厄介さの本質なのです。

「人の使う空間」を同じく対象とするこのふたつの学問領域の違いを、先ほどの構法計画学を下敷きにして言うとすれば、次のようになります。すなわち、「建築計画学」は、「人の使う空間」を主に用途の観点から必要な規模やつながり方などの要求条件として捉え、それによって「仕切り」全体の構成を確定しようとするものである。これに対して「インテリア学」は、すでにつくられた「仕切り」の全体構成を与条件として、その内側に目的とする「人の使う空間」を直接構築しようとするものである。

以上、私なりに、領域の違いを可能な限り明確にしたつもりです。これはこれで全く無駄な努力だとは思わないのですが、しかしこの議論、何やらむなしい感じもします。領域の違いを言い立てるよりは、ほとんど重なっていると捉えたほうがよっぽど素直で、むしろ生産的なものかもしれません。特に基礎的な学問領域においては、共通していると捉える方が正しいのではないかと思います。

では、例えば、領域の面でやや迷いがある研究論文を投稿しようとする場合、どうすればよいか。それは結局、研究者本人の意思にかかっているのだと思います。ただ、その場合は、その論文がその領域に属するものであることを（もちろん論文の中で）明確に主張してほしいのです。論文投稿に限らず、その学会内で行うどんな学術活動についても同じです。若い方々の活躍に期待しています。

■令和元年度 日本インテリア学会通常総会議事録

総務委員長 白石光昭 (千葉工業大学)
記録 江川香奈 (東京電機大学)

日 時：令和元年6月8日 (土) 13:30~14:30

会 場：千葉工業大学 津田沼キャンパス

出席者：直井、加藤、西出、上野、内田、江川、片山、金子、河辺、小宮、白石、早野、ペリー、棒田、松崎、松本 (吉) (理事16名)
来海、新舂、河村、中村 (評議員4名)
石黒、角田、佐伯、白鳥、仲谷、野澤、藤村、松本 (佳)、森、山田 (智)、吉田 (正会員11名)
(合計31名)

配布資料：

- 1) 平成30年度日本インテリア学会第2回理事会議事録・平成30年度日本インテリア学会通常総会議事録
- 2) 令和元年度日本インテリア学会総会資料
- 3) 日本インテリア学会会則 (改訂案)
- 4) 入退会者名簿 (2018年10月22日~2019年6月8日)
- 5) 論文集・梗概集のアーカイブ化に関する理事会資料
- 6) 日本インテリア学会概要パンフレット
- 7) 第26回卒業作品展・巡回展のお知らせ

議 事：

1. 開会宣言 (進行：金子)
2. 会長挨拶 (直井会長)
3. 定足数の確認 (金子)

出席者は31名、委任状131通、合計162となり、総会の成立に必要な定足数 (正会員305名の1/4以上：会則15条) を満たしていることが確認された。

4. 議長団選出

議長および書記の選出に際し、総務委員会案により議長を直井会長、書記を江川氏、議事録署名人を谷川理事、河辺理事の2名に依頼し、直井会長の進行により議事に移った。

5. 審議事項1：平成30年度収支決算について (白石) (資料2)

- ・資料に基づき、説明があった。
- ・監査報告も問題ないことが報告された。
- ・収支決算について承認された。

6. 審議事項2：令和元年度活動計画について (白石) (資料2)

- ・各支部は一層活発な活動を願いたい。
- ・活動計画について承認された。

7. 報告1：日本インテリア学会会則の改訂について (棒田) (資料3)

- ・事務局移転に伴い、郵便局に口座開設に行ったところ、会則の改訂が必要であり、その内容を報告した。

8. 報告2：入退会の承認 (白石) (資料4)

- ・大会時理事会以降6月8日までの入退会者について報告された。

9. 報告3：名誉会員の人選について (白石)

- ・総務委員会から、九州支部長の森永智年先生、旭化成ホームズの松本吉彦様の2名が名誉会員授与対象者として推薦され、承認された。

10. 報告4：論文のアーカイブ化に伴う、インテリア学会著作規定の改訂について (アーカイブ化WG 小宮) (資料5)

- ・改訂案について報告された。

11. 報告5：本学会のIDMへの参加について (直井)

- 参加について理事会で決定したことが報告された。

12. 報告6：本年度の大会参加費等について (谷川)

- ・10月26、27日に広島工業大学で行う。1日目見学会、2日目は学会発表の予定である。
- ・正会員の学会参加費は3,000円で案内しているが、多くの方に参加していただきたいので2,000円に今後変更する。

13. その他の報告

- ・選挙管理委員会からの報告 (代理：白石)
今年度末までに理事の選挙を行う。今年中に支部の選挙を終えていただきたい。
- ・教育部会からの報告 (金子)
論文書き方セミナーを計画している。詳細はこれからお知らせする。
- ・事務局からの報告 (棒田)
学会概要パンフレットを作成した。本学会の誕生について平成元年 (1988年) は1989年の間違いであることを報告した。

以上



総会の様子

■総会シンポジウム記録

日時：2019年6月8日（土）

会場：千葉工業大学 津田沼キャンパス 7号館1階

パネラー：渋谷忠彦

「インテリア産業の現況と課題」

公益社団法人インテリア産業協会 会長

三井デザインテック株式会社

代表取締役 社長

パネラー：今泉嘉久

「オフィス・インテリアと経営戦略について」

日本オフィス学会 理事

一般社団法人日本オフィス家具協会 副会長

プラス株式会社 代表取締役 会長

コーディネーター：直井英雄

「産官学における学会の役割

ー講演1、講演2を受けてー」

日本インテリア学会 会長

東京理科大学 名誉教授

シンポジウムは、パネラーに渋谷忠彦氏、今泉嘉久氏をお迎えしてインテリアの軸が住宅からホテル・オ



渋谷忠彦氏



今泉嘉久氏

フィスへと向っていることについてご講演をしていただきました。

講演1では、渋谷忠彦氏がホテルのインテリアをデザイン達成するためには「いいものができてもその意思が経営者、企業に伝わらなければ意味がないので、プレゼンテーション能力というのが非常に大切となってくる。」と、述べていて、まさに、こういった能力がホテルやオフィスに進出していく上で必要な要素になってくるようです。しかし、企業の方もコンセプトづくりが不足していたり、プレゼンテーションは事例の写真をみせるだけで終わりにしてしまったりしているようです。その上で「経営者にとって一番重要なのは数字である。提案する前の数字より、コンセプトづくりをしてデザインし、リニューアル工事をした会社の一年後の数字はどうなっていたかを謙虚に受け止めるまでが仕事である。面倒な仕事であるが、こういうことが今後必要になってくる。」と、話を締めくくっていただきました。

講演2では、今泉嘉久氏が「明治維新のように翌年から文化が変わることはないが、経済環境そのものが、日本は置かれている立場が大きく変わっているから、何かを変えていかなければならない。」と述べ、生き残るためにオフィスを変える必要があると強調されていた。その手取り早い方法として、「オフィスを変えるという方法がある。例えば、タキシードを着ている時とジーパンを履いている時とでは、振る舞いが違う。今までのオフィスは、ジーパンを履いている時にタキシードの振る舞いをしたり、その逆の振る舞いもしていた。会社が変わる時には、着るものを変えていかなければならない。インテリアの持つ重要性が大事になってくる。インテリア産業に携わる方々が思っているよりも、もっと重要だと思っている。日本の産業を変えるという大きな志を持ってチャレンジしてほしい。」と、述べていました。

両氏の講演を受けて当学会会長の直井英雄氏は「我々インテリア学会は今後こういった方向に進めばいいのかを考えようというのが、本日の講演会の主旨である。渋谷会長からは住宅からオフィスやホテルに移っていくこと、B to CであったのがB to Bに変わってきたということなどをお話いただいた。今泉会長には、オフィスの質が変わりつつあるということ、今までのオフィスだとこれからの将来に合わないのだということをお話いただいた。」と、総括していただきました。そして、このようなインテリアの実情の動きが我々の学問の新しいテーマに潜んでおり、テーマ発掘にもつながるものと渋谷忠彦氏、今泉嘉久氏に深く感謝をしておりました。

なお、このシンポジウムの詳細は冊子にまとめて発行しますので、会員の皆様にはぜひ読んでいただきたく存じます。

文：棒田邦夫（金沢学院大学）

ロシンポジウム研究交流懇親会

シンポジウム終了後、会場を3号館1階食堂に移して講演者の渋谷氏、今泉氏にもご出席をいただき研究交流懇親会を催しました。お話内容が大変興味深かったのか、会員の皆さんは講演者を囲んで思い思いの議論を交わされ、会は大いに盛り上がっていました。ご参加の皆さんありがとうございました。



研究交流懇親会の様子

ロシンポジウムに参加した会員の感想

石黒鳴子（積水ハウス株式会社）

渋谷様のお話では「住まいは家だけではない、オフィスやホテルも住まいである。住宅要素のクロスオーバーが起きている。」という言葉が印象的でした。オフィスやホテルを非住宅と呼ぶことをためらってしまう程、環境が人のパフォーマンスに影響を与えることを再確認しました。ホテルや飲食店ではまるで友人宅に遊びに来たかのようなコンセプトが人気ようです。身近なところでは、住宅を手放しホテルを住まいとするミニマルな暮らしをする友人もいますので、モノ＜コト・ココロの充足という生活価値について考えてみようと思います。今泉様のお話でも、オフィスという場が人をつくるという考えのもと「マーケット・クリエーション」を意識した事例が目を見ました。綱渡りをしながらアイデアを出す会社があるなんて！住宅専門メーカーが、多様な人を受け入れる非住宅をつくるとどのようなアプローチができるのか、これからの仕事にワクワクしています。

棒田邦夫（金沢学院大学）

これまでインテリアというと住宅に関するデザインが多かったが、今はホテル、オフィスといったインテリアデザインに注目が集まっているという。お話は、具体的な事例スライドを用いながら、現状の抱える問題点からの発想とデザインの必要性を強く語っていました。ホテルの事例では、旅館のサービスとして居なくてはならない仲居さんがいないという現状からお布団ではなくベッ

ドを用いたデザインへの移行が進んでいると、語っていました。なるほど昔は女性の仕事も少なく、仲居への需要もあったが、社会の成長とともに女性の仕事も千差万別に増え、オフィスレディと呼ばれる女性も多くなっていますので、理解のできる話でした。オフィスの事例では、私が社会人となって仕事をしていた頃のデスク配置とは全く違い、当時想像もできなかった斬新な配置で、驚かされました。空間内での人間快適行動と仕事効率を図ることで思わぬ発想につながるように思いました。

■第31回大会（広島）開催概要

大会実行委員長 谷川大輔（近畿大学）

本年度の大会は広島で開催いたします。10月26日（土）～27日（日）に広島工業大学にて開催いたします。平和記念聖堂（村野藤吾設計）やおりづるタワー（三分一博志設計）など広島を代表する建物の見学会、内田繁氏がインテリアデザインを手がけたオリエンタルホテル広島での研究交流懇親会、昨年度安田女子大学（広島）に着任されました前田紀貞先生による講演会など、広島の歴史と今を感じて頂けるような内容となっております。広島にも、美味しい日本酒や瀬戸内の海の幸、お好み焼きなどがございます。皆様のご参加をお待ちしております。

■10月26日（土）

1) 見学会 13:00～18:00

集 合：13:00

集合場所：カトリック幟町教会世界平和記念聖堂
〒730-0016 広島県広島市中区幟町4-42
広島駅より徒歩 約15分

解散場所：広島平和資料館

見 学 先：世界平和記念聖堂、市営基町高層アパート、おりづるタワー、原爆ドーム、広島平和記念公園及び資料館、広島原爆死没者追悼平和祈念館など

2) 研究交流懇親会 19:00～21:00

場 所：オリエンタルホテル広島

「ニューヨークカフェ」

（インテリアデザイン・内田繁）

〒730-0026 広島県広島市中区田中町6-10

HP: <https://www.oriental-hiroshima.com>

受 付：18:30～

*懇親会開始まで、下記の内田繁設計のインテリアをご見学頂けます。

見 学：18：30～19：00

見学場所：ロビー、レストランバー「OZAWA」、
宴会場「つばき」

■10月27日（日）研究発表会・卒業作品展

10：00～16：00

会 場：広島工業大学 三宅の森 Nexus21

受 付：4階 エントランス 9：00～

開 会 式：10階 スカイテリア 9：30～9：45

研 究 発 表：10階 1007～1010講義室

卒 業 作 品 展：4階 コミュニケーションプラザ

理 事 会：10階 1001講義室 12：10～13：10

記 念 講 演 会：10階 スカイテリア 13：15～14：45

講 師：前田紀貞氏（建築家・安田女子大学教授）

テ ー マ：「建築道（けんちくどう）」

閉 会：10階 スカイテリア 16：15～17：00



Fig 2. オリエンタルホテル広島/ニューヨークカフェ
インテリアデザイン：内田 繁（研究交流懇親会）



Fig 1. 世界平和記念聖堂 設計：村野藤吾（見学会）



Fig 3. ENISHI RESORT VILLA 設計：前田紀貞（講演会）

■令和元年度運営委員会だより

□選挙管理委員会

委員長 村川剛啓（千葉県立市川工業高等学校）

今年度は、評議員、理事、会長・副会長の改選のため、3年に一度の選挙が実施される年になっておりますので、正会員の皆様にお知らせいたします。

なお、11月末までには各支部長の皆様へ評議員の選挙依頼をさせて頂く予定です。

お忙しい中恐縮ですが、各支部の皆様にはご協力をよろしくお願い致します。

□総務委員会

委員長 白石光昭（千葉工業大学）

今年度は6月8日（土）に千葉工業大学にて総会が開催されました。今年も無事総会を終えることができましたことをご報告いたしますとともに、皆様のご協力に感

謝いたします。ここでは、その概要をご説明いたしません。審議事項につきましては、①昨年度の収支決算報告、②令和元年度の活動計画及び予算計画が提案され、承認されました。また、理事・評議委員会で承認されました事項として、①事務局移転に伴う会則の変更、②入退会者の承認、③名誉会員の推薦（森永智年氏、松本吉彦氏）などが報告されました。

本学会も他学会同様に、正会員数が伸び悩んでおります。ここ1、2年におきましては、正会員の減少が少なくなりましたが、減少傾向は変わっておりません。皆様のご協力のもと新会員の増加に努めていただければ幸いです。また、そのためには学会の活性化が必要です。会員皆様一人ひとりのご協力を頂ければ、少しずつ良い方向に向かうと思っておりますので、今年度もご協力よろしくお願い致します。

□広報委員会

委員長 棒田邦夫（金沢学院大学）

広報の主なお仕事は学会の情報発信であります。そのひとつに会報の発行があり、年3回の発行を行っています。31年目を迎え、元号も平成から令和と変わり、社会のしくみも大きく変わってきており、会報の記事構成、項目、内容もこの変化に対応した誌面を考えなければと悩んでおります。近年会員の出入りも激しく、主な原因は会員の高齢化と新しく入会した方の学会の魅力・自分の立位置ではないかと思っており、まさに会報の役割の重要性を痛感しております。その上で、誌面内容の改訂を考えております。その試案として以下のことを考えてみました。

1. 会報のページ数を8ページにして、掲載記事の簡素化を図り詳細についてはホームページ掲載とする。……印刷代金の軽減が可能。
2. 年3回の会報のページ数を8ページ、16ページと2種類として、記事の内容によってメリハリをつける。……若い会員の想いを述べるページを増やす。
3. 文面記事記述の文字数を減らして、簡素な報告記事にまとめる。……広報委員の会報に関わる時間の軽減を図ることができれば広報委員の増加につながる。若い会員の立位置にもつながる。

会員の皆様いかがでしょうか。まだまだいろいろな取り組みが考えられるかと思っております。前向きなご意見をぜひご投稿ください。

棒田のメールアドレス：k-bouda@kanazawa-gu.ac.jp

□国際委員会

委員長 ペリー史子（大阪産業大学）

今回はありません。

□論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊（文化学園大学）

AIDIA Journalは、例年、7月中旬に募集情報が公開され、9月上旬に論文提出締め切りというスケジュールで進められてきました。しかし、本年度については、8月31日現在、まだ募集情報が公開されておられません。

AIDIA事務局（中国室内設計協会CIID：aidia@ciid.com.cn）に対して、AIDIA Journal 2019の募集情報を送るよう何度か依頼しておりますが、今日までお返事がありません。隣国（中国、韓国、フィリピン）のインテリアデザイン団体のHPにも、AIDIA Journal 2019の募集情報はありませぬので、本年度の募集はないことも考えられます。今後、情報が入り次第、学会のホームページにてお知らせいたします。

日本インテリア学会論文報告集については、9月末を応募締め切りとして、現在投稿を受け付けております。論文投稿締切の期日は、一昨年までは10月末でしたが、昨年からは9月末が締め切りとなりましたので、ご留意ください。多くの会員の皆様からの論文投稿をお待ちしております。

なお、論文審査委員会の構成メンバーの変更が、昨年10月の理事会において承認されました。従来からの渡辺秀俊（委員長）、平田圭子委員（副委員長）、西出和彦委員、加藤力委員、片山勢津子委員に加えて、新規に村井裕樹委員、高橋正樹委員にご協力をいただくこととなりました。

本学会の論文審査について、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

□表彰委員会

委員長 高月純子（女子美術大学）

第26回日本インテリア学会卒業作品展を第31回日本インテリア学会大会会場にて開催致します。

日 程：10月27日（日）大会最終日

時 間：10：00～16：00

会 場：広島工業大学 三宅の森Nexus21 4階

コミュニケーションプラザ

出展参加登録校：44校

◇大学（34校）：愛知淑徳大学、大阪産業大学、九州産業大学、九州女子大学、京都女子大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、共立女子大学、神戸松蔭女子学院

大学、駒沢女子大学、札幌市立大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、女子美術大学、椛山女学園大学、成安造形大学、拓殖大学、帝塚山大学、東京藝術大学、東京造形大学、東京電機大学、東京理科大学、名古屋芸術大学、名古屋工業大学、日本大学（芸術・東京都）、日本大学（工学・福島県）、日本文理大学、広島工業大学、広島女学院大学、広島大学、福井工業大学、文化学園大学、武庫川女子大学、武蔵野大学。

◇短期大学（3校）：岩手県立大学盛岡短期大学部、島根職業能力開発短期大学校、日本大学短期大学部。

◇専門学校（4校）：ICSカレッジオブアーツ、フェリカ建築&デザイン専門学校、北海道芸術デザイン専門学校、中央工学校。

◇高等学校（3校）：岐阜県立高山工業高等学校、千葉県立市川工業高等学校、福岡市立博多工業高等学校。

（*学校名はアイウエオ順）

卒業作品展の作品は、全国の幅広い教育機関（大学・短期大学・専門学校・高等学校等）に募集を募り、建築・デザイン・家政・環境など多様な分野における卒業制作・を本企画の展示のために特別にまとめあげた作品です。

「空間」の概念、公共性、プライバシー、五感の感受性自体が変化している現代において、次世代を担う学生たちの新鮮な視点を通じた“拡張されるインテリアの今”を知ることができます。日本インテリア学会はインテリアに関する研究等を通じて、学術の発展を図るとともに、その成果を社会に還元することを目的に活動しています。その一環として巡回展も予定しております。企画意図は、一般の方々の見学を可能とし、インテリア学会及びインテリアの概念、教育環境がより社会に向けて広く知られることを目的としています。大会展、巡回展共にご協力・ご来場をよろしくお願い致します。

□アーカイブ化委員会

委員長 小宮容一（元 芦屋大学）

本委員会は、現在第2フェーズのデータ入力の作業中です。論文報告集・梗概集のデータをエクセルデータベースに作成中で全体の30%が処理済みです。エクセルのデータベースは2019年度中の完了が目標ではありますが、著者毎（題目毎）にPDFを作成する作業が追加発生し、全体の作業ボリュームが倍増しております。ご協力頂ける先生はお申し出頂ければ幸いです。

今一つは、J-stageとの契約に必要な、本学会の「著作権規程」の策定と理事会承認に向けての作業があります。私の方で、案を作成し6月8日の理事・評議委員会でご説明しご意見を求めました。その折りの意見を入れた第4案を作成、この案を理事の方々にメールで、送付

し意見を求めている所です。意見を集約した第5案を、10月の理事会での承認に向けて、事前（9月末頃）に理事の方々にメールしたいと考えています。

会員方で、学会の著作権に関しご意見がありましたら、私の方へお送り下さい。

<y-komiya@khaki.plala.or.jp>

■令和元年度支部だより

□北海道支部

支部長 小澤 武（小澤建築研究室）

今回はありません。

□東北支部

支部長 早野由美恵（東北芸術工科大学）

今回はありません。

□関東支部

支部長 内田和彦（㈱オカムラ）

今回はありません。

□東海支部

支部長 河辺伸二（名古屋工業大学）

2019年6月29日（土）に、東海支部総会が名古屋工業大学にて開催されました。例年通り活動報告・会計報告、事業計画・予算が議題となり審議、承認されました。総会終了後に、名古屋工業大学夏目欣昇准教授の「オランダ建築の現在形」の講演会があり、写真を鑑賞しながらオランダの建築・インテリアについて聞くこと



講演会（6月29日開催）



研究交流懇親会（6月29日開催）

ができ、大変充実した講演会でした。研究交流懇親会は、名古屋工業大学内カフェ salaで開催しました。

4月26日（金）に、当支部も名を連ねている中部インテリアデザイン連絡会の第24回レイセミナーで、高畑満氏（エム デザインスタジオ代表）による講演会を、TOTOプレゼンルーム1・2（大名古屋ビルヂング12F）にて開催しました。演題は「インテリアスペースクリエーション プランニングのこだわり 提案と実践」でした。氏の手書きの多数の平面図や展開図作品を映像や実作品で見せながら、家具の形や空間配置の考え方を披露していただきました。参加者は、学生を含めて30余名で、講演の前には模擬演習も行っており、大変有意義な講演会となりました。

□北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

今年度、北陸支部には準会員から正会員になった湊明日香様、支部移籍の白鳥洋子様、藤井容子様、新入会の石黒鳴子様の4名が新たに加わりました。一方、去っていかれた方もおられました。故人では4月の小松暁一氏、6月の榎谷富夫氏です。3月に河内久美子様が職責多忙、山口征三氏が離職、8月には齋藤義男氏が年齢的な問題から退会の申し入れもありました。皆様には支部活動、特に金沢で開催した大会には大いにお力をお貸しいただいたことが思い出されます。北陸支部を支えていただいた方々、気がつくとも早いもので高齢の方も多くなってきたことを知る結果となりました。今更ながらですが、思い起こせば当学会も30年経ったのです。設立時30代であった方々も今や60代となるわけですから若い会員の入会を積極的に進め世代交代をして、若い方が魅力を感じる企画・運営が急務であることを感じます。この状況は北陸支部ばかりではなく、他の支部も同様ではないでしょうか。知恵を絞って持続可能な学会にしたいものです。

下記の写真は、6月8日の総会及びシンポジウムの終了後に催された研究交流懇親会の場で、北陸支部参加者を紹介したものです。右から森進太郎、佐伯高基、石黒鳴子、白鳥洋子、新舩静香、清水忠男、棒田邦夫です。皆様、お忙しい中でのご参加ありがとうございました。さらに、ご参加の学会員の方々からは初めての北陸支部会員に温かく接していただき感謝します。おかげさまで楽しく懇親を深めることができました。



研究交流懇親会（6月29日開催）

□関西支部

支部長 片山勢津子（京都女子大学）

4月6日に支部総会を開催し、そこでも話し合われた懸案の山形県建築視察「山形の建築が熱い」を8月末に開催いたしました。2泊3日ながら、天童木工（家具工場）・旧済生館本館（擬洋風建築の円形病院）・最上川センターハウス（内藤廣設計）・銀山温泉（隈研吾設計旅館と街並み）・庄内町新産業創造館クラッセ（米蔵リノベーション）・荘銀タクト鶴岡（妹島和世設計）・ホテル



見学会風景

水田テラス（坂茂設計）・加茂水族館（クラゲ展示で危機脱出）・山居倉庫（街並み保存）・土門拳記念館（谷口吉生設計）・酒田市美術館（池原義郎設計）・出羽遊心館（中村昌生設計）etc. と、かなり欲張ったツアーでした。心配した雨も酷くはなく、山形の建築インテリアを堪能して、無事に帰還いたしました。

現在、今年度見学会第2弾として南禅寺界限別荘（対龍山荘、無隣庵）の見学を11月23日に計画中です。適宜HPに掲載いたしますので、ご希望の方はお申し込みください。http://www.jasis-kansai.jp

□中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学工学部）

1. 支部総会

■日 時：令和元年6月1日（土）14：00～15：00

■場 所：穴吹デザイン専門学校 A602

■出席者：10名+委任状14名

本年度も総会を皮切りに、見学会、講演会、ワークショップなど活発に活動が行われる予定である。特に本年度は、中国・四国支部（広島工業大学）にて全国大会が行われるため準備を進めている。世界平和記念聖堂（村野藤吾設計）や、おりづるタワー（三分一博志設計）など広島を代表する建物の見学会、内田繁氏がインテリアデザインを手がけたオリエンタルホテル広島での研究交流懇親会、昨年度安田女子大学（広島）に着任された前田紀貞先生による講演会など、広島の歴史と今を感じて頂けるような大会を目指しています。是非ご参加ください。

2. マンセル（学生ネットワーク）キックオフ会

■日 時：令和元年6月1日（土）14：00～15：00

■場 所：穴吹デザイン専門学校 A501

中国・四国支部では、広島を中心とした学生（主に、広島工業大学、近畿大学工学部、広島女学院大学、安田女子大学、穴吹デザイン専門学校の学生による）のネットワーク「マンセル」があり、支部の見学会、講演会、



総会学術講演会の様子（講演者は遠藤麻里氏）

ワークショップを企画、運営をしている。本年度は、広島工業大学の学生がリーダーとなり活動を行なっている。本年度の大会では、マンセルの活動をパネルで紹介することを学生が企画しています。是非ご覧ください。

3. 総会学術講演会（支部会員による講師）

■題 目：過去と現在の都市風景をつなぐアプリケーション

■講 師：遠藤麻里氏（広島国際学院大学）

■日 時：令和元年6月1日（土）15：30～17：00

■場 所：穴吹デザイン専門学校 A601

遠藤氏の研究の内容についてお話を頂いた。情報技術（CG）を使い建築物の素材（外装および内装）の経年変化を予測してまちづくりに活かそうとする手法や、これまで撮られた膨大な建築や都市空間の写真を情報技術により整理し地図上にマッピング（リンク）して、それらをICT技術を活用したまちづくりを進めるものなどが紹介された。それらは、これまでの都市の記憶や人間の生活を未来に伝えていこうとするもので、これからの建築や都市、インテリアを考える上で重要な手法であった。

□九州支部

支部長 森永智年（九州女子大学）

今回はありません。

■令和元年度研究部会だより

□歴史研究部会

部会長 河田克博

すでに案内がありましたように、本年の大会に合わせて10月26日（土）に、広島市内の建物を大会実行委員会との共催で開催いたします。「世界平和記念聖堂」や「おりづるタワー」などを見学する予定です。多数のご参加を期する次第です。

□人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

今年度中には見学会を開催しようと考えております（家具メーカーショールームの見学）。開催が決定しましたら、ご連絡いたしますので、ご参加ください。

また、人間工学部会のメンバーを募集しております。関心のある方は白石までご連絡ください。

□教育研究部会

部会長 金子裕行（千葉県立市川工業高等学校）

今回はありません。

期限付き研究部会

□スマートインテリア研究部会

部会長 中村孝之（生活空間研究室）

近年、生活家電のIoT化・RT化、HEMS・BEMSの進展に加え、生体情報・環境情報などの利活用ビジネスの開発と、「インテリア空間の知能化」が進んでいます。そこでインテリア空間の知能化を「スマートインテリア」と呼び、新たな提供価値や設計要件について研究しています。

これまでの研究では、「インテリアのスマート化に向けたデザイン要件の枠組み検討—スマートインテリア研究その1」（井上徹・小柳智裕）（第30回大会（2018年10月））において、現状の整理、分析の視点を示しました。また日常生活の情報化が当たり前となった若年層であるデジタルネイティブ世代への予備調査を行い、「デジタルネイティブ世代の超スマート社会観の考察—スマートインテリア研究その2」（小柳智裕・井上徹）、及び「スマート化に対する大学生の意識調査と考察」（小柳智裕・池田聡・井上徹）（日本教育情報学会第35回年会（2019年8月））として報告しました。

一方で、デザインAIや検査予測技術、施工ロボットなど、設計・施工・メンテナンスの現場でも新たな可能性が示されつつあります。微力ながら今年度も引き続き調査研究を継続しています。

□ユニバーサルデザイン研究部会

部会長 植松暉子

（AP～Nエイジレス・プランニングネットワーク）

「インテリア空間のユニバーサルデザインの推移の考察」を2017年2018年インテリア学会大会で発表。

2019年は千里住宅展示場の25社49戸の住宅の中から1社1戸を選び24社24戸を調査しました。各住宅の延床面積は101.17㎡～350.57㎡（平均227.45㎡）非常に大きくショールーム化している。しかし、ここ数年、発生している自然災害（地震・台風・大雨洪水など）と地球温暖化などにより、各メーカーの構造は、重量鉄骨 軽量鉄骨 木造在来工法 鉄筋コンクリート造・耐震構造・制振構造・免震構造・地盤・基礎・建築材料など様々で災害に強い住宅をPR。空調は、全館空調・個別空調・太陽光発電・高断熱・気密サッシなど快適性・安全性・耐久性を追求している。しかし、外観やインテリアなど見

た目を強調している住宅が多い。玄関空間の手摺とベンチ設置が11/24とほぼ半分は取付けてないとは！配慮が欠けている。元気な若い家族対象の住宅が多く、高齢者には住み難い。人は毎日としをとります。10年先20年先を見過ごしたユニバーサルデザインの視点で高齢者の家を展示しては？人生の60%を自宅で過ごしていると言われております、その日々暮らす住宅が安心、安全、快適に、自立して暮らせる空間であれば、転倒などの事故を防ぎ健康寿命の延伸になるのではないのでしょうか！

□インテリア教育研究部会

部会長 藤原美樹（福山大学）

テーマ「地域格差からみるインテリア教育の実態調査」について取り組んでいる。

本稿は、その途中経過を報告する。

◇研究の目的

現在日本では、都市への人口集中、地方の人口流出などの地域格差問題がある。これは、国内における地方と都市の大学教育の地域格差に影響を及ぼしている。

本研究は、「大学教育」のひとつとして「インテリア教育」に着目し、大学教育の地域格差からみるインテリア教育の実態について明らかにする。

◇研究対象と研究方法

本研究は、本校が所在する中国圏域の5県と関東圏域の1都6県の2圏域の大学を対象とする。各大学のシラバスと教科書他を検証調査する。また、各大学の教育の質を比較するために、学部学科名称、定員、教員数を整理し、授業評価、資格取得状況や就職先などの調査を行う。

◇シラバスの整理

本稿では、2圏域のインテリア教育が行われている35大学160講義からリスト化を行った。また、シラバスの「授業概要」よりキーワードの抽出を行い、内容を知識・資格・技能の3つの目的に分類した。各「授業概要」からキーワードの抽出を行った結果、中国圏域は関東圏域よりわずかに知識の項目の割合が多いことが明らかになった。次に技能を目的とした講義が多くあることが分かる。資格が目的なものは少数であった。

以上より、2圏域におけるインテリア教育の内容は、知識の取得を目的とした講義が主であり、技能の向上のための講義が付随する形であった。

◇今後の予定

「インテリア教育」について「教育の質」に関して、「授業評価」「資格取得（資格の種類、合格状況）」「就職先」を整理し、考察をすすめる。

□甲子園ホテル・帝国ホテル比較研究

部会長 黒田智子（武庫川女子大学）

「設計」や「デザイン」は、それを受け取る「他者」を、空間・機能・視覚・精神（心）など多角的側面から「利する」、「利他」のための存在である。そうであるならば、それらを差し出す建築家やデザイナーの「独創性」もまた、本来、「利他」に向けられるであろう。そのような「利他」を視点に甲子園ホテル（1930）と帝国ホテル（1923）の比較研究に取り組む。ホテルの利用客と立地する地域の生活者という2重の「他者」を、装飾・仕上や空間構成を通じてどのように「利する」のかを比較する。「利他」は、倫理・宗教の基本でもある。各ホテルを設計した遠藤新（1889-1951）とフランク・ロイド・ライト（1867-1959）が、両ホテルの常務取締役兼支配人としてふたりを指名した林愛作（1873-1951）と同様、キリスト教徒であり、仏教美術に関心が深かった事実に着目する。

遠藤は、帝国ホテル設計時にはライトのチーフアシスタントを務めていたので、ふたりが共有した設計理念の特徴をまずは明確にしておく必要がある。そのためには、1911（明治44）年、林が最初に依頼し、結果としてライトの構想の下敷きになった下田菊太郎（1866-1931）のホテル案と、ライトによる帝国ホテルとを、「利他」の視点から比較することが有効であると考えます。

下田案そのものを確認することはできないが、下田、ライト、遠藤、林各々の言説や行動記録をその背景と共に整理することは可能であるため、現在、それに着手している。

■事務局より

棒田邦夫（金沢学院大学）

総会が滞りなく終了しまして、会員の皆様には今年度令和1年の年会費支払いをお願いしております。学会の活動は会員の年会費によって運営されておりますので、お支払お忘れなく、お振込頂きますようお願い申し上げます。

なお、10月26日、27日と広島にて第31回大会が開催されますが、大会参加はもちろん口頭発表、パネル発表を予定している会員の方々には年会費の支払いができていないと参加ができません。大会時の前までにお振込いただきますようお願い申し上げます。振込お時間のない会員様には、当日会場において年会費のお支払い受けをご用意しておりますので、ご利用ください。

また、今年度より事務局と支部共同企画として見学会

を実施することにいたしました。第1回の実施は9月27日（金）であります。見学場所は、プラス株式会社虎ノ門オフィスと株式会社セゾン情報システムズです。参加受付締切は9月17日としました。今後も2回、3回……と引き続き企画していこうと考えております。今回参加できなかった会員の皆様、次回の参加をお待ちしておりますので、ご案内の折にはご参加よろしくお願いたします。

■掲示板

□インテリア学講座への投稿のお願い

棒田邦夫（金沢学院大学）

昨年より設けましたインテリア学講座、ご投稿のお願いをしているものの中々ご提供がいただけません。そこで、どのような内容のものを書けばよいかいくつかの事例をあげてみましたので、投稿のご参考にしてください。

例1：夫婦の寝室計画の失敗

40代のご夫婦で高校生の長男、中学生・小学生の男女3人のお子さんをお持ちのご家族の新築住宅を設計したときのお話です。ご夫婦は共にお医者様でご主人が医学部の先生で結婚当初から長く官舎暮らしをしているご家族で、お子様の成長と共に個室が必要となって新しく1戸建て住宅を建てることになったのです。そんな中で奥様からの強いご要望で夫婦の寝室を夫、妻別々の独立した寝室にしました。完成して数年後、ご長男と会う機会があつてすまいのをお聞きしたところ「両親は離婚した」と聞かされました。驚きました。打ち合わせや入居時のご様子からは大変仲のよいご夫婦であったのにと、『夫婦別室』ではなく、夫婦は『夫婦同室』を主張して事を進めた方がよかったのか、と反省してしまいました。以下が寝室の平面図です……。夫婦は同室であるべきであるのか……。

例2：長期滞在宿泊施設のデザイン

訪日外国人の旅行者は年間3,000万人で、今後も増えるであろうといわれています。金沢でも北陸新幹線開通後は多くの外国人が訪れており、中でも目につくのが家族であったり、グループであったりすることです。金沢はホテルが少なく、その多くはビジネスホテルであり、滞在日数も国内旅行者よりは長い滞在です。ビジネスホテルなどに宿泊すると料金も高額となり、ホテルでは宿泊できない事態ともなっています。その対応策として民泊施設が数多く設けられています。が、この施設住宅地内にあることからさまざまな問題も起こっています。最近では1人4,000円4～6人泊まれて冷蔵庫・洗濯機・

電子レンジ・キッチンも完備した長期宿泊ホテルもお目見えしています。以下が参考平面図です……。

この事例以外にも、インテリアの色彩や照明についての個人的な考え、これまでの経験から得たインテリアの

思いなど日々のくらしで気になっていることでも結構です。お気軽にご投稿をお願いいたします。1投稿1ページ、文字数2,000文字（図面・写真含む）、タイトルと名前、所属で200文字（4行）を原則とします。

■ 編集後記

広報委員 清水隆宏（岐阜工業高等専門学校）

私にとって今回で2回目の会報編集を終えました。前回同様、まずは無事に発行することができて安堵しています。2回目なので慣れたのではないかと思われるかもしれませんが、実は1年前の編集作業のことはすっかり忘れてしまっており、広報委員長の棒田先生に再度、編集手順を1から教えていただくことになり、お手数をお掛けしました。また、掲載内容についても委員長から詳細に指示を受け、その通りに実行しているのが実態です。

本来であれば、会報掲載内容を多種多様に充実させるために、「様々な会員の方々に興味を持っていただく記事とはどのようなものか」、「それぞれの支部・委員会・部会や会員が取り組んでいる活動や研究などを同時進行的に伝達することはできないか」などと広報委員会で話し合っただけで編集を進めることが理想だと個人的には考えています。しかし残念ながら、現時点の広報委員会では人員も予算も時間も潤沢に確保されている訳ではないため、とりあえず必要最低限の任務として、いつも通りの情報発信に徹することが多くなっているのが現状です。私のこの編集後記をここまで読んでいただいた熱心な会員の方には是非、定期掲載されている「インテリア学講座」の原稿に限らず、自分の書いたこの記事を掲載してほしいといった気軽で自由に積極的なご寄稿を希望いた

します。理想的には、広報委員が「今回の会報にはどの記事を載せようかな……」と、多数の寄稿記事から選ぶ作業が中心となれば、編集作業がとても（楽（ラク）ではなく……）楽しくなりそうです。そして、会員の皆様に毎号発行が待ち望まれる、会報が手元に届くことが楽しみになる、そんな会報を発行することができたら幸いです。

末筆ではございますが、執筆依頼から原稿締め切りまで、短い期間だったにも関わらず、迅速にご対応いただきました皆様に感謝申し上げます。今回も編集作業で感じたことを広報委員全員で共有し、次号編集へ繋げて参ります。今後とも皆様の温かいご支援とご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

■日本インテリア学会会報第65号（2019.9.30発行）

編集者： 清水隆宏

発行者： 直井英雄（日本インテリア学会会長）

広報委員会： 棒田邦夫（委員長）

井上貴司、小俣祐樹、清水隆宏、

西岡基夫、松尾兆郎

e-mail：k-bouda@kanazawa-gu.ac.jp

■事務局

日本インテリア学会 事務局 伊藤、棒田

〒920-0941 石川県金沢市旭町1-25-25

電話：080-2386-5652 FAX：076-262-6530

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp